

東京都小学校国語教育研究会研究主題

他者と協働し、豊かな言語生活を実現する国語学習 —身に付けた力を意識し、自ら学びを進める—

書くこと部 研究主題

書くことのよさを実感できる単元づくりを目指して

第6学年国語科学習指導案

単元名 残しておきたい、今の私

～書き表し方を工夫して、思いを伝えよう～

学習材名「大切にしたい言葉」（光村図書6年）

日時：令和7年2月21日(金)5校時

児童：大田区立洗足池小学校 第6学年2組 37名

担任：大田区立洗足池小学校 教諭 石井 麻穂

指導者：中野区立平和の森小学校 主任教諭 松江 宜彦

1 単元の目標

- ◎語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うことができる。〔知識及び技能〕(1)オ
- ◎目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。

〔思考力、判断力、表現力等〕B(1)ウ

- 言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して思いや考えを伝え合おうとする。
- 〔学びに向かう力、人間性等〕

2 単元の評価規準

	ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
単元の評価規準	①語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。 ((1) オ)	①「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(B (1) ウ)	①自分の考えが伝わるように、粘り強く書き表し方を工夫し、今までの学習を生かして文章を書こうとしている。

3 単元構想

(1) 児童について（児童観）

本学級の児童は、文章を書くことに対して苦手意識がある児童と、自信をもってすすんで書く児童との差が大きい。また、説明的文章はすらすらと書くことができる児童が多いが、自分の感情を表現した文章を書くことに対しては全体的に苦手意識がある。その問題点として、児童は、自分たちの語彙力を挙げている。どのように表すのがよいのか迷いや不安を感じている児童も多くいる。そこで本単元では、「考えの形成、記述」に重点をおき、指導することとした。

毎日の活動として、『TODAY'S ROCKY』という振り返りカードを日直が書くことになっている。これは、自分たちの行動の良かったことや楽しかったことを書き、掲示することで一日を振り返る活動である。また、英語の学習においても、1年生から6年生までの自分自身について、写真を見ながら振り返り、その時に感じたことやその時に思ったこと、行われたことなどをまとめる活動を行っている。様々な活動を通して、少しずつ語彙が増えてきた傾向もあるが、まだまだ、自分の感情を出すことに抵抗感がある子も多い。また、どう表すことがよいのかを認識していない児童もいる。そこで、本単元では、記述をしていく中で、自分の感情に合う言葉を見付けたり、詳しく書いたり簡単に書いたりするなど、書き表し方を工夫して書く力を身に付けさせたい。

(2) 学習材について（学習材観）

本単元名は「残しておきたい、今の私」である。小学校卒業を控え、今の自分が心に刻んでおきたい、未来の自分や目の前にいる関わりのある人たちに伝えたいことであれば、どのような題材でもよいこととする。例えば、次のような題材が考えられる。

- ・特に熱中していること
- ・感銘を受けた出来事
- ・わき目もふらず、取り組めること
- ・圧倒された瞬間
- ・大好きなもの
- ・絶対叶えたい目標
- ・一生忘れたくない思い出
- ・憧れの人
- ・自分の流儀
- ・心に響いたこと（言葉、文、教え）

上記のような例を提示し、卒業文集に書くことができなかった自分の思いを選ばせたい。また、児童から「こんなテーマで書いてもよいですか？」といった提案があった場合、児童の強い思いが溢れるような題材であれば積極的に認めていくことにした。制限を狭めないことで、思いが溢れる題材を一人一人が選択できるようにする。

このように、幅広い題材を児童が選択することが予想されるため、学習材となるモデル文も幅広く用意しておく。様々な題材や表現の工夫を施した文章を用意しておくことで、一人一人の児童が自分の思いを表現するのにぴったりのモデル文を選択し活用できるようにしていく。

(3) 単元について(単元観)

本単元は6年生の「書くこと」の学習の集大成として位置付ける。これまでに学んできた書く力を具体的に意識し直し、それらの力を活用する単元となるようにしたい。そのため、まず単元の導入である第一次ではこれまでの「書くこと」の学習を次の観点から振り返り、学び方や表現の工夫について共有する。

① 「書くこと」の学びの過程

②各過程における学び方の工夫(取材活動ではどのような工夫をしてきたか、等)

③どのような表現の工夫をしてきたか、できそうか、してみたいか

③については、具体的な文章がないと児童からは意見が出てこないことが予想される。そこで、これまで継続してきた「TODAY'S ROCKY」を参考にしたり、自分の文章を読み直したりすることで考えやすくなるようにしたい。さらにこのタイミングで文例をいくつか提示し、どのような表現の工夫がされているかを分析するようにすることで、表現の工夫について具体的に捉えられるようにする。複数の文例を読むことによって、どの文章にも書き手の強い思いが溢れているという共通点を児童は見出すことができるだろう。そこで本単元名「残しておきたい、今の私」を示し、小学校卒業を控えた今の自分が心に刻んでおきたい、思いが溢れる題材について書くということをつかめるようにする。完成した文章は、保護者に見てもらうことで、未来の自分や、親や友達を読んだときに心が動かされるような文章を書きたい、と意欲を高められるようにしたい。

第二次からは、第一次で確かめた「書くこと」の学びの過程を生かし、一人一人学習を進めていく。取材、構成の段階においては、児童の実態を把握し、必要な手だてを講じることとする。一人一人のタイミングで学習が進んでいくことが予想されるため、全体で一斉の指導を行うことはできるだけ少なくする。その分、同じような課題に陥っている児童を集めて指導をしたり、困り感に応じて個別に助言をしたりする。また、一人一人の取材、構成、記述の段階の様子を互いに見えるように学習環境を整え、参考にしながら進められるようにする。同じ段階にいる友達や、似た題材について書いている友達が誰かを知ること、必要に応じて読み合ったり気付いたことを伝え合ったりすることができるようにする。

第三次は完成した文章を読み合う時間である。書き手として表現を工夫したところを伝えたり、読み手としてどのような表現がよいと思ったのか感想を伝えたりすることを通して、表現の工夫にさらに注目できるようにするとともに、自分の文章のよいところを実感できるようにする。

4 書くこと部で捉える「言葉による見方・考え方を働かせる」とは

書くこと部では、「書くこと」の学習における「言葉による見方・考え方を働かせること」を単元における言語活動を通して、課題を解決する際に育む言葉への自覚であると捉えた。

その上で、書くことにおける「言葉による見方」とは、知識・技能的な側面から、書きたいことを表現するために、語彙や文、文章、段落、文章全体に着目することと定義した。また、「言葉による考え方」とは、情報の扱い方の面から、情報を整理する際の方法としての考え方(比較・類推・因果・分類/分解・抽象化・具体化・系統化・一般化)であると捉えた。さらに、思考・判断・表現的な側面から書きたいことを見付けたり、書く対象を見つめ、表現したりすることとして、発想や着想をえること、さらにそこから構想や着想を練ることであると定義した。

書く活動においては、この「言葉による見方」と「言葉による考え方」とを行き来しながら、単元の目的を達成することを目指している。この行き来には、①選択②運用③検討④想像の4つの場面が想定される。「選択」とは、どのような言葉を使うかを児童自身が吟味し、選ぶこと、「運用」とは、その言葉のもつ意味を確かめ、実際に使ってみること、「検討」とは、文脈において適切か考えたり、どのような意図でその言葉を使ったのかを推し図ったりすること、「想像」とは、その言葉を使ったときに読み手がどのような印象をもつかを考えること、である。

これらを複合的に体験することで、豊かな言語感覚を育成することが可能となると考える。豊かな言語感覚とは、言語で理解したり表現したりする際の正誤・適否・ニュアンスなどについての感覚のことである。

以上を踏まえ、獲得した言葉の力を単元内に留めることなく、教科横断的な視座で活用したり、自らの生活に活用したりする場をもったりすることで、豊かな言語生活を実現することにつながる考えた。

5 研究主題に迫るために

(1) 児童が(本単元において)身に付けたい力を意識し、主体的に学習に取り組む。

本単元の重点目標は、「自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること」である。「2 単元の評価規準」でも示したように、自分の考えが伝わるように、これまでの学習を生かして、粘り強く書き表し方を工夫する姿を期待する。

「粘り強く」書き表し方を工夫することができるようにするためには、「このくらいでいい。」と途中で妥協しない姿勢が大切であると考え。そして、そのような姿勢を育むためには、ちょっとした表現であっても工夫することで読み手の印象が変わる、ということを経験させるようにすることが大切である。「工夫して書くと、人(読み手)を感動させられる、自分も感動する」ことを実感することができるよう、二つのモデル文(工夫前と工夫後)を提示し、表現を工夫することでどのようなことを感じたか共有する時間を設定する。表現を工夫して書くことの価値を実感させ、「表現を工夫して書く」ことへの意欲を高めていく。さらに完成した文章は保護者に渡すことを伝え、保護者が読んだときにも心が動かされるような文章を書こうとする意欲を高めたい。

第二次からは自分の進度や各時間の目標に応じて書き進めていくこととなる。一斉指導がなくても自ら表現を工夫しようとしたときに参考にできる資料として、「類語辞典」を用意したり、様々なモデル文から工夫している文章を見付けたりしながら、表現を磨くことができるようにする。

(2) 学習活動(言語活動)において、自らの考えをもち、多様な考えをもつ人と関わり、新たな考えをもつ。(確かにする、広げる、高める、深める、などを含む)

「『心に刻んでおきたい』、『強い思いが溢れる』題材を選びましょう。」と投げかけるだけでは、児童が「このことを書きたい」と考えをもつことは難しい。そこで、単元の導入や取材の段階では児童の思いが湧き上がってくるような言葉と出合わせたい。教科書の巻末にある「言葉の宝箱」には様々な「心情を表す言葉」が示されている。例えば「わきめもふらず」「満ち足りる」「没頭する」「かんめいを受ける」などの言葉と出会いその意味を確かめることで、「うれしかった」「楽しかった」「感動した」ことだけでなく、様々な経験(エピソード)が想起されることが予想される。様々な経験(エ

ピソード)を思い出したうえで、その中でも特に自分の思いが溢れてくる経験(エピソード)を選び、書くことを決められるようにする。

文章を書くだけでなく、タイトルを工夫する過程を単元の中に位置付ける。取材段階で自分が書きたい経験(エピソード)を決めた後、その経験(エピソード)から、要約するとどのような学びや気づきを得たのか、キーワードはどのような言葉なのか、あえて要約し短い言葉でまとめることを促す。そうすることで、どの経験(エピソード)を自分の中にどのように心に刻んでおきたいのか、自分の意図が明確になると考えた。

記述の段階では、第一次で確かめた様々な文例や友達の文章を参考にしながら、表現の仕方を工夫できるようにする。特に似た題材について書いている友達と文章を読み合い、参考にしたり共にどう表現するとよいか話し合ったりすることで、より自分の表現を磨いていこうとすることができるような場面を設定する。

(3) 獲得した言葉の力を日常生活に活用し、言語生活を豊かにする。

(2)で示したように、本単元の出発点は思いが沸き上がってくるような言葉や表現の仕方との出会いである。本単元の学習を通して、言葉や表現の仕方をきっかけに様々な経験が思い出されたり、逆に自分の経験は様々な言葉や表現の仕方でも表現されたりすることを実感的に捉えることができる。今後の生活においても、「うれしい」「楽しい」というような、これまで多用してきた言葉だけに頼らず、自分の心情にぴったりの言葉を探そうとしたり、表現の仕方を工夫しようとする姿を期待する。新たに意味を知り、今後も使っていきたいと思った言葉や表現の仕方については「書き表し方」辞典に書き足していくことを促していく。また、当然のことであるが、書いた文章を読み合い、認め合うことを通して「書いてよかった」と実感し、これからも文章を通して他者に思いを伝えていこうとする意欲を醸成していきたい。

本単元で書いた文章は、卒業を控えた児童の思いを保護者に受け取ってもらえるようにする。保護者に読んでもらうことで、単元名にあるように「残しておきたい」と思えるような文章を書こうと、実の場を意識して目標を設定できるようにする。保護者に読んでもらうのは、卒業の1か月前である。その時点で感想を伝え合うことは時間的に難しいことが予想されるため、完成した段階で友達と読み合ったり家族に読んでもらったりする機会を設定し、読み手からの感想ももらえるようにすることで「書いてよかった」という満足感を味わえるようにしたい。

6 単元計画（全5時間）

過程 (次)	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準 評価方法
第 〇 次		<ul style="list-style-type: none"> ・「TODAY'S ROCKY」を日々書き留める。 ・「言葉の宝箱」にある言葉や「題材の例」を読む。 	<ul style="list-style-type: none"> ○1日の中で印象に残った場面や友達の行動について、日々振り返ることができる場面を設定する。 ○掲示板に「わきめもふらず」「感銘を受けた」「圧倒された」など、印象的な出来事を想起させるような言葉や「題材の例」を掲示しておく。 	
第 一 次 課 題 の 設 定 と 計 画	1	<p>1 これまでの「書くこと」の学習を次の観点から振り返り、学び方や表現の工夫について共有する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 「書くこと」の学びの過程 ② 各過程における学び方の工夫 ③ どのような表現の工夫をしてきたか、できそうか、してみたいか <p>2 複数のモデル文を読み、表現の工夫に注目したり、共通点を見いだしたりする。</p> <p>3 単元の目標を捉え、学習の見通しをもつ。</p> <p>4 書くことを選び、伝えたいことを明確にする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○「一日の振り返りカード」の中から抜粋したものを配布したり、自分の文章を読み直したりすることで考えやすくなるようにする。 ○モデル文をいくつか提示し、どのような表現の工夫がされているか分析するようにすることで、表現の工夫について具体的に捉えられるようにする。 ○「言葉の宝箱」にある「心情を表す言葉」をいくつか示し、その意味を確かめることで、様々な経験（エピソード）が想起できるようにする。 ○思考ツールをいくつか提示し、自分が使いやすいシートを選んで情報を整理し、伝えたいことを明確にできるようにする。 	

		【取材期間】課題設定したものをじっくり思い出し、書き出す期間	
第二次 取材・構成・記述・推敲	2	1 文章全体の構成や展開を考える。	○構成を明確にしてからではなく「まず記述してみたい。」と考える児童もいると想定する。そのため構成の時間、記述の時間と区切って一斉に同じ活動をさせるのではなく、各々が自由に学習活動の順番を考えられるようにする。
	3	2 書き表し方を工夫して記述する。	○全体指導はできる限り少なくし、同じような課題に陥っている児童を集めて指導をしたり、困り感に応じて個別に助言をしたりする。 ○文例を分析したものを教室に掲示しておき、迷った際に参考にできるようにする。 ○必要に応じて類語辞典を参考に促す。 ○一人一人の取材、構成、記述の段階の様子を互いに見えるように学習環境を整え、参考にしながら進められるようにする。
	4	3 表現に注目して文章を整える。	○児童が構成の段階を経て記述に移るタイミングを見計らい、改めて表現の工夫に注目する時間を設定する。そうすることで、「自分も細かいところを工夫して書こう」とする姿勢につなげていきたい。
	本時		
第三次 共有活用	5	1 完成した文章を読み、書き手として表現を工夫したところを伝え、読み手としてどのような表現がよいと思ったのかを感想に残す。	○表現の工夫にさらに注目できるようにするとともに、自分の文章のよいところを実感できるようにする。

[主体的に学習に取り組む態度①]
観察・ノート・端末上の文章
・今までの学習を生かして粘り強く書き表し方を工夫しようとしているかの確認

[思考・判断・表現①]
ノート・端末上の文章
・目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見を区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫しているかの確認

[知識・技能①]
ノート・端末上の文章
・語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っているかの確認

7 本時の学習（4 / 5）

（1）本時のねらい

目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。

（2）本時の展開

学習活動	指導上の留意点	評価規準 評価方法
<p>1 前時の学習を振り返り、本時の目標を定める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「前の時間は文章の骨組みと、前半は書くことができた。今日は残りの後半を完成させたい。」 ・「表現を工夫させて書きたい。特に文末表現をカッコよくしたいな。」 ・「このシーンは詳しく書きたいな。前の部分の説明はもう少し短くしたいな。」 <p>2 取材メモや構成を基に、記述する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・（この言葉に感動したからこの言葉が出てきたときの状況は詳しく書いた方がいい。） <p>3 友達と読み合い、参考にしたり助言し合ったりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・□□さんは～というエピソードを書いているでしょ。でもこのエピソードからは…とは感じにくいんだけど、どうしてこのエピソードを選んだのか説明してみて。 <p>4 観点に沿って振り返りを書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「構成メモにはないけれど、初めの部分には文例のように情景描写を付け加えて、そのときの様子がよく分かるようにした。」 	<ul style="list-style-type: none"> ○本時の終わりにはどのような状態を目指すのか、具体的に捉えてから取り組めるようにする。 ○これまでに確かめた表現の工夫について改めて触れることで、「書き表し方を工夫して、思いを伝える」という単元の目標を改めて意識できるようにする。 ○記述している児童の様子を机間指導によって捉え、必要に応じて個別に助言する。 ○モデル文から、工夫された言葉を見つけ出せるように掲示しておく。 ○読み合いは、記述が終わった児童同士で行うこととする。 ○友達の文章を読むときは、その友達が伝えたいことはどのようなことなのかを捉え、伝えたいことと文章が結び付いているか、という視点で読むよう促す。 ○目的や意図をもって、表現を工夫したところについて書くよう促す。 	<p>[思考・判断・表現①]</p> <p><u>ノート・端末上の文章</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫しているかの確認 <p>[言葉による見方・考え方を働かせている児童の姿]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分で書いた文章を細かい表現に注目して読み直している。 ・「書き表し方」辞典にある表現の仕方を参考に、文章を書いたり修正したりしている。

一発の打ち上げ花火[↑]

六年一組

「ヒュー、ドン。」[↑]

割れんばかりの拍手がわき起こる。[↑]

昭和記念公園に集まった二十万人の人・人・人……。前も後ろも、右も左も。芝生という芝生に人が座って、みんなが空を見上げて口を開けている。[↑]

「きれい。」[↑]

誰言うでもなく、つぶやきが聞こえてくる。[↑]

私は七月二十七日に、昭和記念公園の花火大会を観に行つた。コロナになってからは花火大会も中止になっていたので、久々の花火大会だ。友達との待ち合わせより二時間も前に立川にいるほど、浮き立つ気持ちに正直に行動している自分がいる。友達と合流して、文字通りの人波をすり抜けながら前へ前へと足早に歩を進めていく。私の熱気を冷ませと言うかのごとく、天からポツポツと冷水が注がれる。それも一瞬のこと、芝生に着くころには雨もやみ、アナウンスが始まった。アナウンスが終わるとすぐに一発目の花火がさく裂した。空を赤とオレンジでおおう大きな丸い球体に、私の目はくぎ付けになる。[↑]

一時間後、盛大な連射花火が終わると、にぎやかだった空に急に静けさが戻つた。地上では、人々がさざ波のように動き出す。私はスターマインの余韻にひたりながら、人の流れを見つめていた。そんな私の頭の中に、激動の流れの中で自分を見失わずに生きた高杉晋作さんの言葉が浮かんだ。[↑]

『先が短いなら、短いなりに僕は面白う生きたい。派手な打ち上げ花火を打ち上げて、消えていく……。』[↑]

高杉さんは、二十七才の若さで亡くなったが、歴史にさん然と輝く花火をしっかりと打ち上げている。[↑]

帰りの電車に乗りながら、私も短い人生の中で何ができるかを考えた。何ができるかは、具体的には分からないが、何度もきらめき続けるスターマインのようにはなれなくても、一瞬でもきらめける一発の打ち上げ花火にはなりたいたいと思った。一発の輝きのために、それまで努力し続けようと、電車の心地よいゆれを感じながら一人ほくそ笑んでいた。[↑]

私に足りなかったもの[↑]

Kさん[↑]

私はこの学校にいてずっと足りなかったものがあります。[↑]
それは勇気です。なぜかというところ、みんなの前で発表しようとしたら、周りの視線が気になって、緊張してしまうからです。周りの人が見ていなくても、自分を見ていると思うと怖くなって固まってしまったことが何回もありました。[↑]

あるとき、勇気という言葉が私の頭に思い浮かびました。私には勇気が足りないから、恥ずかしかったり、怖いと思ったりしてしまうと思えました。だから、どうしたら勇気もてるのかを調べてみました。[↑]

結果、色んな方法がありました。すぐく心に残った言葉が「成功するイメージを頭の中に描く」です。人前で発表する前などに、うまくいくイメージをして発表した時、少しだけうまく話せたと思います。[↑]

他には、移動教室の時、みんなの前でやれたことがありました。それは、バスの中で歌ったことです。歌うことは好きなので、自信がありました。心の中では緊張と怖さが残っていましたが、まだ緊張することの方がたくさんありますが、これから勇気をもつための行動を色々見つけて、勇気をもって生活していきたいと思えます。[↑]

未来へ向けて↑

Mさん↑

私は、中学校生活で目指したいことが二つある。↑

一つ目は、『どんな人にも優しくできる人』になりたい。これ

は、私が低学年の時に心を動かされた上級生がきっかけだ。その人は、いつもきらきらした笑顔で皆に優しく声をかける人だった。私が探し物をしていると、↑

「大丈夫？」↑

と声をかけてくれ、親身になって探してくれた。焦っていた気持ちだが、その言葉により綿毛で体を包まれたような安堵感に変わった。前の私は、一言をかけるのも迷い、ためらってしまっていたが、今はあの時の上級生に少し近づけた気がする。これからもっと成長したい。↑

二つ目は、『自分がしてもらって嬉しいことは、周囲に自分からすすんで行う』ことだ。これは、母から言われた言葉で、自分がされて嬉しいことを周囲の人にすれば、いずれ返ってくるという意味で教わった。私は、一つ目の『どんな人にも優しくできる人になる』という目標の一步だと考えた。だからまずは、これをちゃんとできる人になるのが大事だ。↑

私は六年生になるまでに、色々なことを周りの人から学んできた。今度は、自分が周りの人の見本になりたい。これが、私の中学校生活で目指したいことだ。↓

振り返りシート

ゴール	共有	推敲	記述	構成	選材	取材	ゴールの設定 課題の設定	めあて
この六年間の「 自分の気持ちをしっかりと伝える文章が書ける。」 ↑	めあて	経験したり感じたことの中から、テーマを決めよう。(課題の設定) ・テーマに合うように情報を集めよう。(取材) ・目的や意図、相手に応じて書く内容を選んだり、優先順位を決めたりしよう。(選材) ・事実と感想、意見を区別して、自分の想いが伝わるように書き表し方を工夫しよう。(記述)						

学習振り返りシート

組 番